

# 「核兵器のない世界を」 女性の交流会 IN ニューヨーク 発言集

2010年5月4日 SEIU 会館講堂



主催：新日本婦人の会

新日本婦人の会は5月4日、NPT再検討会議・NY行動の参加者らによびかけ「女性の交流会」を開催しました。女性平和基金の招待者や原水爆禁止世界大会・「女性のつどい」などでつながった海外の女性平和活動家らもたくさん参加。熱気あふれる2時間の交流会で、「核兵器なくせ」「戦争・軍事ではない安全保障を」など、平和を切実に願う、女性たちの思いと行動がひとつになりました。感動の「交流会」発言をご紹介します。(文責：新婦人中央本部 発言順)

## ノーマ・アムスターダムさん

アメリカ、SEIU(国際サービス労組)1199 支部副議長



姉妹のみなさん、こんばんは。ご紹介いただきましたノーマ・アムスターダムです。ニューヨークへようこそ。

みなさんがここへきていただいたことを大変光栄に思います。みなさんがつどっているのは SEIU1199 支部の本部です。SEIU1199 支部は世界の労組のなかでも最大の支部で、35 万人以上を組織しています。私は、この SEIU1199 支部の副議長です。15000 人の正規の看護師を組織している部門の責任者です。私も正規の看護師です。

NPT 再検討会議というこの機会に、あの運命の日、どのような悲劇がおこったのか私たちに思い起こさせてくれるのは、日本の姉妹のみなさんをおいて他にはいません。

私たちの組合は、つねに平和と軍縮のためにたたかっています。私たちの組合員は、介護の仕事をしたり、裕福なオーナーであったりするばかりではありません。何よりも連帯の意味、連帯の大切さを知っている良心をもった女性であり、男性です。

ですから私たちはみなさんを心からの敬意とあたたかい連帯の気持ちをもってお迎えします。医療労働者は、「もっともよいケアとは予防ケアである」ということをだれよりもよくわかっています。同じことが戦争と平和の問題についていえます。私たちにとって大事なことは戦争に勝つことではありません。戦争、とりわけ核戦争を防止することです。アメリカ合衆国をはじめとする核保有国は、核兵器を持たない国に核兵器を拡散させないことばかり心配しています。

ですが彼らはしばしば忘れがちです。NPT 条約のなかでもっとも大事な点は、核保有国が「自分たちがもっている核兵器をなくす」という合意であることを忘れがちです。

これこそが核廃絶の問題です。私たちは、新たな国がこの大量破壊兵器を開発するのをやめさせなくてはなりません。同時に私たちはいま、アメリカ、イギリス、フランス、中国、ロシア、パキスタン、インド、そしてイスラエル、この国々がもっている核兵器をなくさなければなりません。

みなさんを全面的に私たちが支援していることを覚えておいてください。平和と軍縮という共通の願いをもって私たちはみなさんとともに、歩みます。

みなさんがここに集ってくださったことに、あらためて感謝します。



## アン・ライトさん

アメリカ、元陸軍大佐・外交官（イラク戦争に反対し辞職）

ようこそニューヨークへ！

核兵器廃絶のために集まってくださり、ようこそ！

各国政府にもう核兵器はいらないと声をつきつけている日本と世界中の女性たちに、アメリカの女性を代表してごあいさつします。

あらためてみなさんに感謝したいと思います。このすばらしい新日本婦人の会のみなさんのおかげで、私は昨年日本に行き大勢の人と出会い、憲法9条のこと、核兵器をなくすために何をすればよいかなど、たくさんのお話を話し合うことができました。世界の女性たちが手をつなぎ、勇気を共有して、すべての良心ある人々とともに力をあわせるならば、核兵器は廃絶することができます。

そして私はここでアメリカの女性、男性を代表し、わが国が日本の人々に対して原爆を使用したことについて、謝罪をしたいと思います。2度とこのようなことを繰り返さないことをお約束します。

もう一度、ようこそ！ いっしょに核兵器をなくしましょう！



## ドミニク・エターヴさん

フランス平和市長会議・副市長都市ヴィトリー市市議



みなさん、こんにちは！ 女性のみなさん、そして男性の方もみえますね。みなさんとともにこのような会を持つことができ、たいへんうれしく思います。これほど多くの方が、とりわけこれほど多くの女性がニューヨークに集まったということは、女性が平和において果たす役割がいかに大きいかということの反映だと思います。核兵器廃絶と平和活動にとって、女性というのは特別な代弁者です。なぜなら、この地球の北であれ南であれ、いったん戦争や紛争が起れば、女性は子どもとともに、もっとも危険にさらされるからです。もう

ひとつの理由は、過去の戦争でもそうでしたけれども、戦争や紛争後に再建が必要になったときに、女性こそがもっとも活発に活動することになるからです。

社会的な進歩、経済的な進歩、社会の権利における政治的な進歩において、一步一步前進するそのたびに、その一歩が人々の解放に貢献し、また後退すれば、人類と平和を脅かすことになる、そういうことを女性は、いち早くはかりしることができるのです。とりわけ女性のもっとも大事な役割、最も大事なたまたかいというのは、あらゆる種類の兵器がおこす禍を世界からなくすことにあります。

今日の現状をみてみますと、世界で軍事費に巨大な額が投じられています。それと並行して、10億人を超える人々が、栄養不良で苦しんでいます。最近、アメリカとロシアはわずかながらも核兵器の削減を合意しました。フランスはそれでさえ、拒否しています。いったい、私たちはどのようにして、核軍縮をすすめることができるのでしょうか。

ここで考えなければならないのは、私たちはどのような未来を人類にもたらしたいのかということです。非武装化、核の不拡散、核軍縮、紛争解決などによって、どのような安全性を人々に保障すればよいのか、そしてどのようにこの格差、不平等をなくしていったらよいのか。それは相互の発展と援助、あるいは協力、あらゆる形での平和の文化、そしてそれを教育することによって、貧困や悲惨を克服することではないでしょうか。

私たちの町、ヴィトリー市はパリ郊外にある町ですが、以前から平和の文化を促進するさまざまな活動をしています。特にそういった活動は、学校や学童保育所と提携しておこなっています。毎年、国際平和デーである9月21日の集会に向けて行動が具体化されます。私が住むヴィトリー市では、平和のためのさまざまなとりくみを支援しています。たとえば平和のための映画の製作、ミシェル・アギルアラさんがとった広島被爆者の写真の展示、「平和のためのもっとも美しい詩」という詩集の出版などです。

市や市民団体による姉妹都市や相互発展のための援助が、世界のたくさんの方々の場所でおきています。こうした活動は平和を促進するものであり、民族間の相互理解、尊重のための具体的な手段になるのです。

私たちの町は、世界各地でおこなわれるさまざまな行事にも代表を派遣しています。ひとつ紹介しますと、国際女性デー100周年を記念して、女性の闘士や「100年のたたかい、そしてさらに」の著者オディール・グリネさんと展覧会「レジスタンスの女性たち」を開きました。女性たちは、権利と自由と平等を要求にかかっています。この自由というのは、安全に生きる自由、脅かされることのない恒久的な平和のなかで生きていく自由、互いに尊重し社会の進歩がある自由、本質的な自由です。この自由を、地方自治体や平和市長会議のネットワークとともに、私たち女性は、全力をつくして確立していかなければなりません。

このような女性たちの活動が重要だと考え、平和都市と連絡をとりあい共同の活動ができるような機構をつくることを提案したいと思います。それによって、持続的な交流が可能になり、2020年までに核兵器を全廃するという私たち共通の目標に向かって、大きく前進することができるでしょう。

どうもありがとうございました。



## クリスティン・カルヒさん      ドイツ、NATO 反対キャンペーン

姉妹のみなさん、友人のみなさん、同志のみなさん！ 昨年、日本を訪れて原水爆禁止世界大会に参加しましたが、その時にお会いした多くのみなさんに、再会できたことをうれしく思います。

私たちは核兵器廃絶のたたかいを続けなければならないのですが、核兵器の問題は NATO と深くかかわっています。昨年は、NATO 創設 60 周年でした。ヨーロッパでは 3 万人以上が集った大規模な行動がおこなわれました。1 年たった今、今年 2010 年 11 月にリスボンで開かれる NATO 会合に向けての行動を組織している

るところです。

なぜ私たちが NATO に抗議するのか、そこには古い議論と新しい議論があります。まず主要な議論というのは、NATO は冷戦時の遺物であり、克服されるべきものであるというものです。

2 番目に、NATO を維持するにはたいへんお金がかかり、あまりに危険で、人間の命とはまったく相容れないものです。

現在の議論は、NATO がリスボンで新しい戦略を決定するという点です。その新しい戦略に関する最初の準備文書がつけられており、核兵器に関する部分はドイツの元将軍ノーマン氏が、NATO の拡大と干渉政策に関する部分は、有名なマデリン・オルブライト氏がかかわっています。

これらの文書には、NATO がヨーロッパに配備されているアメリカの核兵器含め近代化された核兵器を長期間にわたって保持する意志が示されています。

NATO は抑止力を目的にしています。これは、NATO がたいへん攻撃的な核戦略を持ち続けるということの意味しています。その戦略の 2 番目に大事な点は、資源、経済、貿易上の NATO の利益がかかわるところであれば、世界各地で戦争をおこなうということです。こうした戦略の先駆けとなっているのが、アフガニスタンです。これは NATO の戦略と平和が絶対に両立しえないということをあらわしています。

平和運動は、こうした戦略に対して立ち上がります。みなさんと同じように私たちも、ドイツ軍がアフガニスタンから撤退することを要求しています。

私たちは核兵器の廃絶のためにもたたかっています。ご存知のようにブリュッゲン基地に核兵器が配備されており、ドイツは平時であっても核兵器の脅威にさらされているからです。

ですから私たちは、核兵器廃絶のためにたたかいます。ドイツからアメリカの核兵器を撤去させることは、NATO 反対のたたかいにとっても、とても重要です。そのことによって NATO の片足をもぎとることができます。片足では長いこと立ち続けることはできません。

核兵器のない世界は、NATO のない世界への出発点になります。私たちは核兵器禁止条約のためのたたかいをつよめなければなりません。そしていま始まった NPT 再検討会議で、そのための交渉をはじめるように、プレッシャーをかけていきましょう。

平和のために、NATO に反対し、核兵器に反対するための連帯をひろげていきましょう！





## ジャニス・オルトンさん カナダ平和をもとめるカナダ女性の声

私は、カナダからきました。カナダの女性組織を代表してきましたが、私の会は 50 周年を迎えるところです。私たちの会の創立の目的は、核兵器廃絶です。ご存知かもしれませんが、カナダは、核兵器をつくるために不可欠なウランを供給している国です。私たちの会、「平和を求めるカナダ女性の声」は、25 年にわたって国連での活動をしています。核兵器廃絶にとりくむこと、そして、女性をとりわけ平和と軍縮の問題にかかわるあらゆるレベルでの意思決定に参加させることを、国連にはたらきかけています。私がここで通訳している

平野恵美子さんと出会ったのも、国連女性の地位委員会の場でした。

すでに多くのことが語られているので、あまりつけ加えることはありませんが、2つのことについてお話ししたいと思います。何人かの方が平和の文化をつくること、国際平和デーについてふれていますが、つい最近、カナダ政府の高いレベルで、ある政策が決定されました。平和教育をすすめること、カナダ中で国際平和デーを祝うというものです。

もうひとつは、私たちの会は、どうやったら戦争を非合法化できるのかということにとりくんでいます。すでに国連にもはたらきかけていますが、今年の 11 月にカナダで、この問題についての初めての国際シンポジウムを開きます。

また 5 年たってこのようにつどえる機会がありましたら、このきわめて重要で基本的な問題について、私たちが前進していることをご報告できればと思います。交流会にお招きいただき、ありがとうございました。



## 免田裕子さん 広島・被爆者

5歳のときに被爆しました。私の家は爆心地から4キロ位はなれています。

目も眩むような光と爆風が通り過ぎたあと、家の中は何もかも滅茶苦茶に倒れていました。大きなきのこのような原子雲が空高く、もくもくと立ち上がって行くのが見えました。

兄と私と2歳の妹の3人で近所の人と洞穴へ逃げました。しばらくして雨が降りました。それは、雨とは思えない真っ黒い色をしたコールタールのようなものでした。まさか、放射能が含まれているとも知らず、私たちは濡れました。黒い雨の被爆者です。誰も知らない、想像もできないことがらでした。

放射能を含んだ雨が川に流れ、それから何日も川面には死んだ魚が数多く浮いていました。田舎へ避難する途中の人々も道のそばでたくさん倒れていました、その人たちの間を、ピョンピョン跳んで、よけながら歩きましたが、普通の状態ではなく、怖いという感覚はありませんでした。ただ、なんともいえない死臭が鼻を突き、何日も忘れられませんでした。

70 歳になった今も当時のことは、昨日のことに覚えています。私は4人兄弟ですが、3人がガンになりました。

核兵器は人間がつくりだしたものです。自然にできたものではありません。それならば、人間の知恵と力で無くすることはできるはずですが、核兵器は抑止にはなりません。いくら削減してもたった一発の原爆であの美しいヒロシマがあつと言う間に無くなったのです。削減ではなく、廃絶を願います。

私たち今を生きる者が、その気になればできるはずですが、世界のだれをもあのような目にあわせてはなりません。今も体の具合が悪く苦しんでいる人がたくさんいます。残虐性はもう十二分に証明されました。

あなたと私、国と国、友だちから友だちへ心と力をつなげて廃絶へ向けて行動しましょう。



## ジュディス・ルブランさん

アメリカ、ピースアクション/NY 行動国際企画委員会

アメリカで最大の草の根平和組織、ピースアクションを代表し、また、私の個人的な思いもこめて、みなさんを私たちの町 NY にお迎えできたことを、大変うれしく思います。

家でも、職場でも、国会でも、地方議会でも、通りでも、女性たちは平和で公正な世界をめざす運動の先頭に立っています。私たちは子どもたち

に平和と正義について教えたり、運動を組織したりしていますが、平和と正義というのは、やわな考えでも受け身の考えでもありません。

平和と正義とは、すべての人によりよい生活を保障するための、たいへん戦闘的な私たちを導いてくれる原則です。平和と正義は、私たちがどんな困難があっても、あるいは巨大な力とお金をもっている政治勢力に対抗してたたかい、かちとらなければならない原則です。

戦争と軍事主義は、子どもたちから食べ物を奪います。高齢者から薬を奪います。そしてホームレスの人びとから家を奪っています。

女性たちは、軍事主義を終わらせるための先頭にたたなければなりません。

国連の潘基文事務総長は、私たちが組織した、この中にも参加した人がいると思いますが、先日の国際平和会議でこう言いました。世界には武器があふれている一方、平和への資金は不足していると。私たちは、自分たちの政府に迫らなければなりません。平和のために、そしてこの母なる大地を軍事主義の破壊から守るためにこそ、お金を使えと。

新婦人のみなさんは、地域の活動家として、あるいは議員として、あるいは平和の組織者として、熱心に活動をしています。そのことが私たち世界の女性を励ましています

日曜日に、約 1 万 5000 人が国連に向けて行進しました。日本から、そして世界中から来てくださった姉妹、兄弟のみなさんがいました。みなさんの存在がアメリカの平和運動を大きく励ましました。

日曜日のパレードとリバーサイドチャーチでの国際会議は、私たちアメリカの平和運動に新しい命を吹き込んでくれました。これから全国の地域で活動をひろげたいと思います。

アメリカの私たちは、困難な課題を抱えています。私たちはアメリカの国民に、アメリカの軍事主義が世界各地の人々にどのような影響を与えているのか、そしてアメリカの地域にどのような影響を与えているかについて、教えなければならないのです。

私たちはアメリカ国民に対して、沖縄をはじめ世界各地に駐留しているアメリカの軍事基地が、日本の人々をどれほど傷つけ、同時にアメリカ国民をどれほど傷つけているかについて、理解してもらわねばなりません。

ベトナム戦争のときに、マーティン・ルサー・キング・ジュニア牧師がこういいました。「ベトナムで爆弾が落とされたとき、その爆弾は私たちの地域のうでで爆発するのだと。

キング牧師が私の国の人々に伝えたかったことは、戦争、意味のない戦争、ベトナムでの死は、ベトナムの人々にとって大きな危機であるだけでなく、アメリカの人々の希望をうばい、傷つけるのだということでした。

いま私たちは新しい時代を迎えていることを自覚しています。私たちがたたかい、組織し、アメリカの人たちを本気で立ち上がらせることができるなら、核兵器廃絶を必ず実現できる、その瞬間にいるのです。

みなさんの助けと連帯によって、私たちはより一生懸命、より力強くたたかいを続けることができます。世界中にある軍事主義を終わらせ、世界中の米軍基地を撤去させ、私たちが生きている間に核兵器廃絶を現実のものにするために核兵器廃絶を実現するためにたたかっていきます。ノーモア・ヒロシマ、ノーモア・ヒバクシャ！

## スージー・スナイダーさん

アメリカ、WILPF 前事務局長

IKV・パックス・クリスティー核軍縮プログラムリーダー

みなさん、こんにちは。この部屋の中はかなりあったかいですね。私たちがとても大きなエネルギーを発散していて、大きな興奮を発散していて、この部屋ははちきれんばかりの状態なのでしょう。私を今日この場に招いてくださったこと、そしてみなさんがはるばるこの私の生まれ故郷である町ニューヨークに来てくださったことに心から感謝しています。私はいまはもうニューヨークに住んでいませんが、ここが私が生まれ育った町です。

たくさんの知っている人たちとの再会をうれしく思います。私が出会う恩恵にあずかることのできた人たちです。



ご存知と思いますが、私はスイスに本部を置く世界で一番歴史の古い女性平和組織、婦人国際平和自由連盟の事務局長を務めていました。創立以来 95 年にわたって、WILPF は、この地球で命が続いていくために欠かせない大切なものが 2 つあると考えてきました。ひとつは女性です。女性がいなければ、世界は存在しえません。もうひとつは平和です。それこそ、いま私たちがここに集い話し合っていることです。私たちは世界に示すためにここにいます。私たち女性、男性、人々は、平和は可能だということ、そして平和のうちにらせる世界というのは、核兵器ゼロの世界だと知っています。

みなさん、私たちはこのことを長い間言い続けてきました。いま、世界の指導者たちが耳を傾け始めています。素晴らしいことです。私たちはこのことを喜び、祝っていいと思います。祝うことによって、私たちは力を得て、活動を続けていくことができます。

いま私たちの前には、機会の窓が開かれています。この開かれた窓、機会をつかんで、核兵器のない世界を私たちの生きている間に、実現していきましょう。私は信じています。みんなが力をあわせるなら、そしてアメリカ国内で、カリフォルニアからニューヨークまで連帯するなら、ヨーロッパで、東から西まで連帯するなら、アジア、北から南、東から西まで連帯するなら、核兵器のない世界は実現できるし、平和を実現することができる。

みなさんにひとつだけ、お願いしたいことがあります。ちょっとしたことです。みなさんはここまでやってきて、素晴らしい経験をし、この会に参加し世界中の人たちと連帯をわかちあっています。みなさんがそれぞれの国に帰った時に、自分の地域に帰ったら、どうか新しい人に話しかけてください。なぜいま核廃絶が大事かということ伝えてください。そして、ともに行動しようと頼んでください。それが私のちょっとしたお願いです。

次にみなさんとお会いするのは、ニューヨークかもしれないし、東京かもしれないし、ジュネーブかもしれない。次に会う時には、みなさんが話をした新しい人について、新しいエネルギーについて、私たちが核兵器のない世界をどう実現するか、みなさんと交流できることを楽しみにしています。ありがとうございました。



## アバッカ・アンジャン・マディソンさん

マーシャル諸島、ロングラップ代表

みなさん、こんにちは。私はマーシャル諸島からきたアバッカ・アンジャンです。

私たちの問題と物語は、日本のみなさんと共通です。1954年3月1日のことがきっかけです。ビキニ環礁でブラボーと名づけられた水爆が爆発しました。ロングラップの島民を代表し、みなさんの友情に感謝します。この何年もの間、みなさんがいなければ、私たちに起ったこと、私たちの状況を誰も知ることはなかったでしょう。私たちの問題を世界は知ることがなかったでしょう。その理由が、私にはわかります。みなさんのエネルギー、励まし、平和への粘り強さのおかげだと。今日そのことが示されています。ですから私はみなさんとともにいることを大変光栄に思います。

私の国は母系社会ですから、女性がリーダーです。私たちはこのことを忘れてしまいがちですが、いまみなさんから受け取っているエネルギーが私にそのことを感じさせていますし、私を励ましてくれています。いまの気持ちを言い表すのは難しいですが、先ほど姉妹である友人が私たちがすべきこととして語ったように、国に帰りましたら、私の友人や兄弟、親戚、そして、1人、2人、新しい人に私が感じていることを伝え理解してもらおうと思います。

私たちは放射能がどういう影響をもたらすかということについて、ずっと正しい情報が伝えられないまま、嘘をつかれてきました。私たちは実験のモルモットとして使われてきました。病気の治療もしてと言われてきました。長年の間、56年たったいまも、大勢の人が病気で死んでいます。高い医療費を払える人はいません。ロングラップ人たちは、自分の祖国にしながら亡命生活を強いられてきました。祖国があまりに汚染され住むことができないからです。

慣習や伝統的な生き方も失われてしまいました。私たちにこうしたことを強いておきながら、アメリ



カの大使は、ブラボー実験の 50 周年のときに、このようにいいました。マーシャルの人たちは、自らの命を犠牲にして冷戦を終らせ世界の平和をもたらしたのだから、自分たちを誇りに思うべきだと。

そして私は久保山愛吉さんの最後の願いを思い出します。「私たちを最後の被爆者にしてください」ということばです。まさにこれを終らせるため、核兵器をなくすために、私たちは今日ここにつどっています。

力をあわせれば、私たちは必ず勝利します。今日ここに私を呼んでくださったこと、そして日本原水協が私をニューヨークに来られるようにしてくださったことに感謝します。私の国のことばで女性のチャントを紹介します。ハッピーマザーズデイ、母の日おめでとう！



### 棚原和子さん 新婦人沖縄県本部平和部長

私は、沖縄に住んでいます。ニューヨークは初めてです。

私たちの住んでいる沖縄にも核兵器がある、といわれていますが、本当のことはまだ明らかにされていません。沖縄にあるホワイト・ビーチとよばれる米軍の施設には、原子力の軍艦が昨年 1 年間で41回入港もしています。港周辺の環境調査はきちんとなされていませんので、海の生物に悪い影響がでているのではとあるのではと不安を感じています。

日本にある米軍基地の75%が沖縄にあります。沖縄県にある米軍はそのほとんどが 1950 年代に造られましたが、その建設過程には多くの問題がありました。基地は、空いていた土地に造られたものではありません。基地用地の接收方法には合法的なものもありましたが、ほとんどは違法で暴力的なものでした。ある日、突然、ブルドーザーと武装した兵士たちがきて、畑の作物を押しつぶし、家を焼き払っていきました。そのため多くの人たちが家や、土地を失い、生活は困難をきわめました。

女性に対する性暴力も多発していましたが、犯人をつきとめ裁判にかける権利が私たちにはありませんでした。1945 年 4 月に米軍が上陸して以来、今日まで数千人の女性たちが性的な被害にあい、深く傷つきました。命を奪われた人も少なくありません。被害者の最年少は生後9カ月の赤ちゃんでした。この65年間、米軍による事件、事故で私たちは人権や生存権を脅かされてきました。

だから、今、問題になっている普天間基地の「移設」については、私たちは「移設」ではなく、閉鎖と撤去を求めているのです。4月25日の県民大会には9万3千700人もの人が集い、「基地はいらない」と声をあげました。この大会は思想信条の違いを越えて開かれた画期的なものでした。

「今度こそ基地をなくそう」という決意が、私たちをふるい立たせています。沖縄問題は日本だけでなく、世界の平和にとっても重要な課題です。ここにいるみなさんの努力が必要です。オバマ大統領にも沖縄の声に耳をかたむけてほしいと願っています。基地をなくして、真の友人になりましょう。



### バイニー・バローズさん アメリカ、おばあちゃん平和旅団

親愛なる姉妹、兄弟のみなさん、このようにごあいさつします。私たちは家族ですから。そして大地が私たちの母です。

友人のみなさん、姉妹兄弟のみなさん、いま時計が、刻々と時を刻んでいます。人類はいま破壊へと落ちていっています。すべての核兵器を破壊し核兵器の脅威を取り除かなければなりません。そうしなければ母なる大地に生きるすべての命が破滅の危機にあるのです。(拍手)

被爆者のみなさんの存在が、私たちに思い起こさせてくれます。広島、長崎で焼かれ、蒸発し、命を奪われた 15 万人の人たちのことを。日曜日に集会とパレードがありましたが、ある人が私に参加者の人数にがっかりしたと言いました。1500 という数をあげた彼らに、私は、日曜日に集まった数がどれだけであれ、1945 年の 8 月 6 日と 9 日に亡くなった 15 万人の人々がともにいた、私たちとともに歩いていたのだと言いました。

ですから家族として私たちは今こそたたかわなければなりません。平和と軍縮を実現して、すべての命を救わなければなりません。問題はどうかやってたかつかうか、です。どのような戦略をもつべきか、どうやって国籍、宗教、政治的な立場をこえてすべての人を組織していくか、ということです。

私が提案したいことは、恐れてはならないということです。戦争への策動や行動に抗議し、注意を引くやり方で大胆に声をあげるとのことです。大きな声をあげるだけでなく、信じることのために立ち上がるということです。あなたが立ち上がらなければ、私たち全員が戦争の破壊勢力に打ち負かされてしまうでしょう。

与えられた時間は5分なので、ここで終わりますが、どうか覚えておいてください。私たちは地球の破壊からほんの数分のところにいるということ。戦争は貧困をもたらします。そして貧困もまた、大量破壊兵器なのです。

破壊兵器に使われている資源は、本来、教育、医療、住居、公共の交通・輸送手段、下水、国家基盤、芸術や音楽など私たちの生活を豊かにし、私たちの願いに意味と形をあたえるものにこそ、使われるはずのお金と資源です。平和は人権です。邪悪な勢力に私たちの人権を奪わせてはなりません。たたかいましょ。私たち全員のために。これから生まれてくる子どもたちのために。広島・長崎で、奴隷交易で、宗教裁判など人間が人間に対して行ってきたすべての残酷なことの犠牲になった人々の魂とともに、たたかいましょ。平和は人権です。



## 東よね子さん 新婦人長崎・大村支部

私は、原爆の被爆地、日本の長崎からきました。

戦後生まれの私は、小さい頃から原爆の恐さや、人殺しの戦争は絶対してはいけないと、よく母から聞かされてきました。そのためか、就職してすぐから原水爆禁止運動に参加し、以来40数年、平和運動に携わってきました。

昨年秋、私の平和運動の総まとめのつもりで、NPT参加を決意しました。しかし、12月末までに400人足らずの署名しか集まっています…。そこで2000人を目標に、今年1月、年賀状をいただいた方や、定年まで勤めていた病院職場の方、山やダンスの仲間など、260人を超す方に、署名のお願いのお手紙と、切手を貼った返信用封筒、署名用紙をセットにして送りました。

それからがもう大変です。毎日毎日送られてくる署名と力強いメッセージに感動と感謝で一杯でした。必ずするお礼の電話にも追われ、嬉しい悲鳴を上げました。

ニューヨークに飛び立つまでに署名7400人を超えました！

私は20数年間、毎年地元で開かれるウォークラリーのボランティアとして、1人でプチトマトやバナナなど10数種類の飲み物や食べ物を振舞っているのですが、歩く方々にも署名のお願いをしたら、その中の1人は、「いつもお世話になっているので恩返しのため」と400人も。そして「断る人はいない。署名は楽しいね」と。

年賀状だけのやり取りをしていた中学時の担任の先生は、署名中、転んで怪我したとのことでお見舞いに行くと、若々しかった記憶の先生も、もう86歳。不自由な身体で50人もの署名を集めてくれ、「あなたが頑張っているから、少しでもお手伝いをしなきゃ」と。もう感謝で胸が一杯でした。

知り合いの自衛隊員の父親は、「息子や若者が銃を人に向ける事のないよう、平和の維持を切に願います。現在、未来に向けて、核兵器廃絶を辛抱強く訴えていく活動に大いに賛同します」と署名とともに、力強いメッセージを。伯父は、「可愛い姪が、ニューヨークに行くんだ」と160人。子育ての時期をともに乗り切った元看護師長は、再就職職場で210人。看護学校時の友人は、「同窓会に来ていた友だちが署名用紙を持ち帰り、そこで数十人の署名を集めてくれた」と、友人自身も大感激。あきらめていた元同じ職場のドクターからは、「伯父たちが被爆者で」と120人の署名を。200枚近くの切手をカンパとして送ってくれた方もいます。

いままで署名をした事のなかった人が、ドンドンどんどん大きな輪をひろげてくれ、核廃絶の関心が一段と強くなっていきます。私たちの世論の力で核廃絶を実現できるのも、もう夢ではないと確信しました！

また、わが地・長崎の大村では、自衛隊の飛行場に普天間の米軍の訓練部隊が移設する動きがあり、反対運動を立ち上げました。この反対運動とともに、核兵器廃絶実現まで頑張ります！！ みなさん、ともにがんばりましょう！

